

浄心寺だより

発行
浄心寺門信徒会

郵便番号 714-0081
笠岡市笠岡 2065
電話 (0865) 62-2623
FAX (0865) 62-2595
振替 01260-9-13760
<http://joshinji.suki-ari.net/>



和やかに
新春を寿ぎました

一月二十二日

「み法を味わつて」(六)
淨土往生

「往生」とは、「往」前進し、「生」新しくなることです。始まること、つまりスタートです。死、終わる、困ったというような意味は、文字にも語りません。生まれる、出発です。

マラソンのスタートができるのは、その前に長い練習と、準備体操が必要であるように浄土往生には仏法聴聞と、お念佛を称え、報謝活動に励む充実した人生がなくてはなりません。

年とともに行き詰まりの壁が近づいてくる絶望の人生ではなく、私でも活躍できる力と場のある大きく開けた明るい希望の未来（彼岸）を目指して精いっぱい生きぬく、浄土往生の人生です。

くらやみの福（冥福）を祈つたり、安らかに眠るような目標でなく、安らかに目覚めて自他をしあわせにする道をこそ仏道というのです。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』転載

ごあんない

春季 永代經
彼岸会

(門信徒総追悼法要)

三月十八日(水) 一時半

ご法話 熊本県湯前町・明導寺 藤岡孝教師

報恩講つとまる

十二月六日、午後一時半より当山の報恩講法要が勤まりました。法座前には仏教婦人会の調理によるお齋(とき)をいただきました。赤飯、豆腐と油揚げの味噌汁、色とりどりの野菜の煮物などに一同舌づみを打ちました。

法要では備中里組の法中も出勤され、一同で正信偈をお勤めしました。その後、副住職が親鸞聖人の伝記『御伝鈔』を拝読。

ご講師は福山市御幸町の光円寺住職、平山智正先生でした。報恩講にちなみ、親鸞聖人の生涯についてお話をいただきました。

親鸞聖人は教えて九歳の時得度して僧侶となり、以来二十年間、比叡山で修行、学問に励まれました。しかしながら、なかなかさとりに近づくことができず、むしろ

煩惱の尽きない自身の姿に思い悩んでいました。煩惱が身体にしみこみ、意識せずともあふれ出てくる自身の姿に、親鸞聖人は苦悩されていました。

ともすれば自分の都合でしかも

のを見ることのできないわれわれですが、そのことを自覚したうえで、聖人の教えをいただき、お念もには「あなたが割った」、自分には「お皿が割れた」。無意識のうちに自分に都合のいい言葉が出てしまいました。煩惱が身体にしみこみ、意識せずともあふれてくる自身の姿に、親鸞聖人は苦悩されていました。

晴天ながら非常に寒い日となりましたが、どなたもあたたかい気持ちで帰途につかれました。
～・～・～・～・～・～・～



ご消息を拝読されるご門主さま

平成27年1月20日付 本願寺新報より

専如ご門主がご消息を発布

第二十五代専如ご門主は一月十六日、本山の御正忌報恩講ご満座後、満堂の御影堂で「伝灯奉告法要についての消息」を発布されました。伝灯奉告法要は、ご門主が法統を継承されたことを仏祖の御前に奉告するとともに、お念佛のお願いいたします。

み教えが広く伝わることを期するもので、平成二十八、二十九年に修行されることになりました。
なお、ご消息は本紙3ページに掲載しています。



伝灯奉告法要についての消息

去る平成二十六年六月六日、前門主の跡を承けて法統を継承し、本願寺住職ならびに淨土真宗本願寺派門主として務めてまいりました。ここに法統継承を仏祖の御前に奉告いたしますとともに、あわせて本願念仏のご法義の隆盛と宗門の充実発展とを期して、平成二十八年および二十九年に、伝燈奉告法要をお勤めすることになりました。

阿弥陀如来のご本願は、あらゆる存在を分け隔てなくそのまま救あうとはたらきかけてくださいます。迷いと苦悩をかかえる私たちは、阿弥陀如来のお慈悲ひとすじにこの身を任せ、眞実のさとりの世界であるお淨土に生まれていべき身にならせていただきます。宗祖親鸞聖人が「そらごとたわごと」とお示しぐださった私たち自身を含む迷いの世界は、何一つとしてたよりになるものはありませんが、ご本願のはたらきの中に生まる私たちは、確かに依りどりのを持つことができます。

科学技術の発達による便利で豊かな生活の追求や欲望の肥大化はとどまるることを知りませんが、人々は、そのような豊かさのみを追求することの虚しさに気づきはじめたのではないでしようか。しかも、核家族化・人口の流動化などによって社会構造は大きく変化し、人間関係は希薄となり新たな悩みや不安を生み出しています。さらに世界に眼

を移せば、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、人類の生存に関する課題が露呈していきます。これらの傾向は今後一層強くなつていいくことと思います。

私たちは、凡愚のまま摑め取つて捨てないとはたらき続けていくべきださる阿弥陀如来のお慈悲を聞信させていただき、その有り難さ尊さを一人でも多くの方に伝えることがあります。それとともに仏智に教え導かれて生きる念佛者として、山積する現代社会の多くの課題に積極的に取り組んでいく必要があります。まさにこののような當みの先にこそ、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」道が拓かれていくのであります。

このたびのご法要が、親鸞聖人によつて明らかにされた阿弥陀如来の救いのはたらきに依りながら、時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものでありたいと思います。宗門では、親鸞聖人の誕生850年・立教開宗800年に向けて新たな長期計画が策定されています。皆様の積極的なご協力ご参画を心から念願いたします。

平成二十七年一月十六日

龍谷門主

釋

専

如

平成27年度 行事計画

○花まつり	阿弥陀堂建設のため休止いたします。		
○総会	5月16日(土) 11時30分		
○降誕会 仏教讃歌と上方落語	13時30分	女声コーラス同好会 コール清風 笑福亭三喬 師	
○研修旅行	6月6日(土)	三原市、光徳寺参拝と万田発酵	
○法物虫ぼし法座	7月17日(金) 13時30分	福山市・光行寺 紗屋光影 師	
○サマースクール	7月22日(水)・23日(木)	教区内スタッフ3、4名	
○盂蘭盆会	8月15日(土) 10時・14時	住職、副住職	
○秋季彼岸会、永代経	9月26日(土) 13時30分	福山市・光榮寺 佐藤知水 師	
○地区委員会	12月5日(土) 11時		
○報恩講	13時30分	福山市・善正寺 那須英信 師	
○除夜会、修正会	12月31日(木)・元旦		
○新春のつどい	平成28年1月中旬		
○春季彼岸会	平成28年3月18日(水)	講師未定	
あさのおつとめ	通年毎朝6時		
◇やさしい仏教入門 親鸞さまのおしえ	【31】4/6(月) 【32】6/8(金) 【33】8/22(土) 【34】10/6(火) 【35】12/3(木) 毎回 19時30分 解説：津田明雅 副住職		
◇念仏のつどい	毎月15日 13時30分より (但し1月、8月はお休み)		
※「浄心寺だより」発刊	111号(5月) 112号(7月) 113号(11月) 114号(3月)		
佛教婦人会	総会 3/8例会 各種研修会 研修旅行 料理教室 福祉施設慰問 清掃奉仕など 世界仏婦大会：カナダにて 5/17(日)初参式		
文化筝同好会	毎月第1水曜日 19時30分 指導：平田澄子 先生		
女声コーラス コール清風	毎月第2土曜日 19時30分 指導：平田澄子 先生		
本山関係	9月 千鳥が淵全戦没者追悼法要 7月 全国真宗青年のつどい など各種研修会、記念法要 など		
備後教区	各種研修会 定例法座(毎月11日) 報恩講(11/30) 総代研修会 平和のつどい など		
備中里組	同朋研修協議会 第6期連続研修会(偶数月第2木曜日) 4/26 キッズサンガ 9/1(火)～2(水)本願寺念佛奉仕団		

第五十九回 中国地区

仏教婦人会(若婦人)
大会が開かれる

昨年、十一月八日、九日の両日、本願寺山口別院と湯田温泉「ホテルかめ福」を会場に標記の大会が開かれました。

この大会に当寺仏婦から生江浜の藤井泰代さんと若坊守さんのお二人が参加してくださいました。



若婦人大会に参加して

生江浜 藤井泰代

十一月六日(木)、参加者二十名により仏具のお磨き奉仕をしました。一年の汚れを丁寧に取り除くと美しい輝きが蘇りました。

仏具おみがき



第十七回 料理教室



教区清掃奉仕

十一月十七日(月)、参加二十名。柳平洋子先生のご指導で楽しく調理試食をしました。今回も簡単で豪華なメニュー。ちょっとしたコツと工夫を習つてみませんか？皆様のご参加をお待ちしています。



お斎の調整

十二月六日(土)、浄土真宗における最大行事である報恩講でのお斎を調製しました。会員二十九名は早朝より集合、赤飯や煮物など調理し色鮮やかに盛り付けました。正午から参拝の方々と和やかに頂戴いたしました。

仏さまをたたえる
大合唱

十月八日(水)、本願寺備後会館において大合唱に参加しました。当寺の女声コーラス「清風」十三名も他寺の方々と一緒に、仏教讃歌を声高らかに歌いました。壇上での発表はなかつたのですが有意義な時間を過ごせました。

会場は色とりどりの菊の花で飾られ、とてもきれい。笑顔がステキでした。

「若婦人の大会が山口であるんじやけれど、行つてみん？」

「家族を置いて泊まりに」と、義母から声をかけられたのが出かけたことがなかつた私だけど、「家族は私が面倒見てあげるよ。」という義母の言葉に後押しされて出かけることにした。実はお寺の活動がどんなものかも、少し興味があつた。

会場は色とりどりの菊の花で飾られ、とてもきれい。笑顔がステキでした。

「若婦人の大会が山口であるんじやけれど、行つてみん？」

「家族を置いて泊まりに」と、義母から声をかけられたのが出かけたことがなかつた私だけど、「家族は私が面倒見てあげるよ。」という義母の言葉に後押しされて出かけることにした。実はお寺の活動がどんなものかも、少し興味があつた。

会場は色とりどりの菊の花で飾られ、とてもきれい。笑顔がステキでした。

教区清掃奉仕

十二月十一日(木)、福山市東町にある本願寺備後会館教務所の清掃奉仕に参加しました。

当寺から七名、他寺の仏婦の皆さんと合同でいたしました。清掃の後、お聴聞させていただきまし

願寺派備後教区主催の「門徒総代会研修会」が尾道市西藤町の万福寺に南部の備中里組ら十組からそれぞれの住職、及び門信徒総代等関係者ら約百人が集い開催されました。

開会で讃仏偈のお勤めの後、河原幸造担当組組長の活動報告があり、福井教区の妙壽寺の南眞琴住職が「門徒総代の役割と実践」と題して講義、今宗門を取り巻く現状として少子高齢化、過疎化による社会環境の変化、田舎でも核家族化が進んでおり六十代、七十代の人は皆元気で定年後も働いているためお寺にお参りしない、その

新春の集い

平成
十七年

終わりに全員で「恩徳讃」を唱和して閉会しました。

参加者は坊守さんと総代の内海義郎氏、長安圭一氏、戸田眞左子氏、藤井祐三氏の五氏でした。

ためお寺は仏法を伝える場になつていいない。総代は自ら聴聞の場につき法座で積極的な役割を持つ事又、住職の活動を補佐し門信徒との話し合いをする事等々拝聴しました。

な景品をお土産にして、最後に「老けない小唄」を合唱し散会しました



民謡をメドレーで演奏、会食に入り賑やかに座が盛り上がったところで謡曲や踊りカラオケ等今年もいい歎談して楽しい一時を過ごしま

A black and white portrait of a man with a wide, joyful smile. He is wearing a traditional Japanese outfit consisting of a dark, patterned hakama (skirt) over a dark top, with a light-colored, striped outer robe (fukinuki yosewari) draped over his shoulders. A small, white decorative item hangs from a cord around his neck. The background is plain and light.

政治△家庭

www.vjma.com

笑福亭三喬師
が来演
今年は松喬師匠の
一番弟子でNHKの
テレビ番組「日本の
話芸」にも出演され
た笑福亭三喬さんの
来演が決まりました。
お響きみに。

お知らせ

平成二十六年												上野	永井美代子	勝弘		
南	藤井	増原	三宅	姫嶋	藤川	平成二十七年	土居	谷水	松本	見平	小林	藤井	木原トミヱ	明石	榎平	神保
清子	清子	慶治	亀子	幸一	嘉恵	義明	安江	利夫	孝代	道子	昭	俊介	君惠	工		
1	1	1	1	1	1	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11
.
28	24	18	15	13	12	31	16	11	6	5	5	3	2	29	9	2
76	94	93	103	65	97	83	78	72	98	86	87	87	72	94	72	87
富岡	神島外	里庄町	向吉浜	旭が丘	富岡	明石市	吉浜南	絵師	美の浜	金浦南	生江浜	下田頭	八幡平	倉敷市	大久保	

還淨(げんじょう)

継職法要記念事業へのご懇志

ありがとうございました

昨年四月、当寺第19世住職継職に当たつての記念事業へのご懇志をお願い申し上げましたが、門信徒みなさまの篤いご賛同をいただきまして目標額を上回るご懇志がよせられました。あつく御礼申しあげます。

記念事業の手始めといたしまして本紙前号でお知らせの通り昨年八月、本堂の金障子を新調させていただきました。続いて十二月に阿弥陀堂を新築すべく釈迦堂を除去しお釈迦さまのお像は本堂にご遷座いたしました。

ご本尊の遷座式 春の彼岸会に併せ を行います

当寺のご本尊はいうまでもなく、阿弥陀如来立像です。寺伝によりますと寛文三年（1663）允許されたものです。爾永い年月のうちに金箔の剥落、蓮台など台座の欠損が目立つてきま

今年一月九日、施工の岡寄寺社工務店（広島市）棟梁、設計監理の中村建築研究所（長野市）と法要委員会

員会ならびに住職など関係者で起工奉告法要を行い、いよいよ阿弥陀堂の新築、山門の修復、鐘楼の葺き替え工事が始まりました。

工事のためお墓参りなどご参拝の節には足元が混雑しておりますので十分にお気をつけください。

なお、ご懇志の超過分につきましてはご本尊、阿弥陀如来像の欠損部分の補修と金箔押し、親鸞聖人お像の塗装直し、山門扉の金具取替えなど追加工事に充当させていただきます。これら関連工事にも相当の経費が必要です。ご懇志をまだ頂戴いたしていらない方は、なにとぞご協力いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

（継職法要委員会）

寺伝によりますと寛文年間（1700年頃）当時の本堂が自火炎上した、とあります。そのときの火災にあつたと思われる瓦や礎石が出土しました。現在の本堂はその後、宝永四年（1707）に建立されました。向拝柱の沓石もその火災にあつたものを再利用したのか、近年もろくなつてボロボロと欠損が目立つてきました。そのためこの機に新しい石に取替えることになりました。

何百年に有るか無いかの希有の儀式です。法要に併せ、このご勝縁にお遭いください。

火災の寛文瓦？ が出土

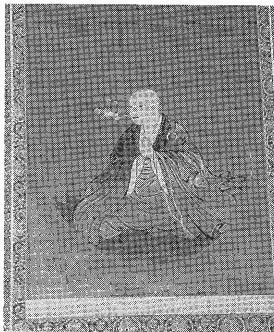
別掲のように記念事業のひとつである阿弥陀堂新築に向けての工事が始まりました。旧来の釈迦堂が撤去され、阿弥陀堂建設のため基礎の掘り起こしの際、焦げた瓦が出土しました。

なお、法物のひとつ「火中出現名号」は炎上した本堂の灰のなかから奇跡的に見つかつたものとして伝えられています。



浄心寺の法寶物

その9



善導大師へ應声即現の図

仏教

2、仏教の伝来



教えとそのあゆみ

中国にさかえた仏教は、朝鮮半島をへて第六世紀のなかばごろ日本に伝えられました。『日本書紀』によりますと欽明天皇の十三年に当時朝鮮半島にあつた百濟の王が仏像や經典を献上したと書かれていますが、これは正式の国使を通じたものですから、それよりも前に仏教は日本に伝わつていたものと思われます。しかし外国の宗教である仏教を受け入れることに対しては、当時の大きな氏族であつた物部氏などは國神の怒りにふれるであろうと保守的な考え方から、はげしい反対をしましたが、

聖徳太子

仏教伝来後およそ五十年を経て、推古天皇の摂政となられた聖徳太子は、仏教に対する日本人の最初の理解者ということができましよう。太子はみずから深く仏教歩的な考えをもつた蘇我氏などは

本に伝えられました。『日本書紀』によりますと欽明天皇の十三年に当時朝鮮半島にあつた百濟の王が仏像や經典を献上したと書かれていますが、これは正式の国使を通じたものですから、それよりも前に仏教は日本に伝わつていたものと思われます。しかし外国の宗教である仏教を受け入れることに対しては、当時の大きな氏族であつた物部氏などは國神の怒りにふれるであろうと保守的な考え方から、はげしい反対をしましたが、

り、蘇我氏が勝つたので仏教はわが国に受け入れられることになつたといわれています。それでも当時の人びとの眼にうつった仏教はめずらしいもの、何かよく判らないが神秘的な力をもつっているもの、あるいは仏教に伴つて輸入された新しい文化について主な関心をもつていたものと思われますので、仏教の思想が正しく理解されいたとはいえないようです。

善導大師 (613~681) は中國隋の時代の僧で親鸞聖人が七高僧として崇められた方のお一人です。諸宗の学をきわめられましたが「西方淨土變相圖」をみて淨土教に歸し、道綽禪師に会い、念佛の法門をくわしく聞きその門下に加わり、長安で念佛を弘められ

た。この物部氏と蘇我氏の間にはその勢力争いにからんで戦いが起きたといわれています。それでも当時の人びとの眼にうつった仏教はめずらしいもの、何かよく判らないが神秘的な力をもつているもの、あるいは仏教に伴つて輸入された新しい文化について主な関心をもつていたものと思われますので、仏教の思想が正しく理解されいたとはいえないようです。

善導大師 (613~681) は中國隋の時代の僧で親鸞聖人が七高僧として崇められた方のお一人です。諸宗の学をきわめられましたが「西方淨土變相圖」をみて淨土教に歸し、道綽禪師に会い、念佛の法門をくわしく聞きその門下に加わり、長安で念佛を弘められ

ました。著書に『觀經疏(かんぎようしよ)』などがあります。

親鸞聖人は『正信偈』の中で「善導獨明仏正意」とその功績を讃仰されていいます。

この画軸の由来は前号本欄で取

に帰依し四天王寺、法隆寺問寺などの仏寺を建立して仏教の発展に尽くされることとともに、國民があつく三宝(仏教)に帰することによって、「和」の理想國家を実現すべきことを念願されて『十七条憲法』を制定し、仏教の果たす任務を高く評価されました。太子は『法華經』『勝蔓經』『維摩經』の三經の註釈を書かれましたが、現在残つて

いるものを読みますと、その理解の深さに驚かすにはおられません。さて『法華經』はすべての人を仏たらしめようとする仏の大慈悲を開示するお經であり、『維摩經』は維摩居士という、在家の生活をしながら仏教を深く理解していた人物を主人公とするお經であり、『勝蔓經』は勝蔓夫人

聖徳太子画像(部分)
御物 写真 宮内庁

(朝日新聞社刊
「仏教を歩く」より転載)

一編集後記

境内の春光いよいよ長閑になりました。著書に『觀經疏(かんぎようしよ)』などがあります。

親鸞聖人は『正信偈』の中で「善導獨明仏正意」とその功績を讃仰されていいます。

この画軸の由来は前号本欄で取

られたといわれています。それでも当時の人びとの眼にうつった仏教はめずらしいもの、何かよく判らないが神秘的な力をもつているもの、あるいは仏教に伴つて輸入された新しい文化について主な関心をもつていたものと思われますので、仏教の思想が正しく理解されいたとはいえないようです。

善導大師は、親鸞聖人の功績を讃美する言葉をみても、仏教に對する太子の深い信仰がよくうかがえます。わが国に仏教がしつかり根を下ろし、とくに大乗佛教が栄えることができたのは、ひとえに太子の功績によるもので、親鸞聖人が太子を「和國の教主」(日本のお釈迦さま)と仰ぎ、親しみ敬われたのはもつともなことといわねばなりません。

り、皆様方には、如何お過ごしでしょうか。来る三月十八日に勤められる春季永代經・彼岸会のご案内、新門主の御消息、諸般の報告等をお知らせします。(編集委員会)